

「買うこと」は「未来を選ぶこと」

安心な社会をつくるために、あなたは何を買いますか？

地球温暖化について考えよう！

消費者って

1. 私たち、弱いのか？強いのか？

生活するためにいろいろなものを買う私たち。消費者ってどういう存在？

①生身の人間の私たち。買ってきたものを食べたり使ったりすることで、病気になったり、けがをしたり、命を脅かされることもある。



②事業者はその商品についての情報をたくさん持っているのに、都合の悪いものは公開しないことが多い。

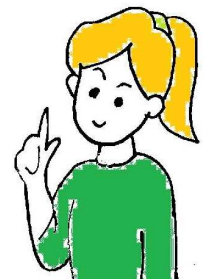
お金をかけて広告し、いいイメージだけを伝えたり、情報量の少ない私たちを誘導する。

でも！

ちゃんと調べて、良いもの、悪いものを知ったら、私たちには選ぶことができる！

私たちにとってうれしくないものを自分で見極めて、みんながそれを選ばないことにする。また社会にとって良いものを知って、みんなでそれを選ぶことにすれば、事業者も社会も変えていけるのではないかな？

調べてみよう！



2. 未来は自分で選べる？

私たちの暮らす社会って今どうなの？

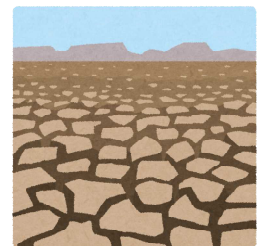
①経済格差 リーマンショックから16年、東日本大震災から13年がたつけれど…

日本の子どもたちの相対的貧困率(2018年14%⇒2021年11.5%)は改善しているとは言えまだ9人に一人が貧困の状況にある。

②災害多発 毎年超大型台風、豪雨、水害、地震に見舞われている。

異常気象の常態化の原因として地球温暖化があげられている。太陽熱や水温を調整する大気や水流の循環が変化している。

③食糧不足 地球環境が変化して食料のとり方が変化している。今後は心配。



日本が排出する温暖化の原因物質二酸化炭素の量は、排出量上位国の5番目にランクイン。「2050年までに実質排出量を0にする」と政府は宣言、しかしどうやって？

どんな未来に暮らしたい？

どの国の人も、
どんな境遇の人でも、
穏やかに暮らせる
世界

地球規模の
気候変動が
収まってほしい

誰にでも、困ったことが
あれば手を差し伸べて
くれる人や場所が
必要

紛争がない
世界

普通に仕事を
して、不安なく
暮らせる収入が
あれば良い

誰でも幸せに
暮らせる未来

未来の地球が、人や
動物、植物の生きに
くい場所になったら
とても困る。
CO₂排出を減らした
社会をつくること
が大事だ。

みんなが穏やかに暮らせる社会をめざすには 経済の考え方を变える必要があるのでは？

①資本主義(利益優先)経済システムの問題

今の経済のあり方は、お金や会社を持つ資本家が利益を求めて事業を拡大し、それで得た利益によってさらに事業を拡大し、際限のない利益追求を行うことが正しいと考えられています。



しかし 20 世紀中ごろから利益優先の経済活動により公害問題が発生、現在では気候危機を招いています。

自然環境や住民など外部に対して不利益をもたらしていることを無視して、利益を追求している企業があるのです。



②成長しなくても豊かさのある「定常経済」という経済システム

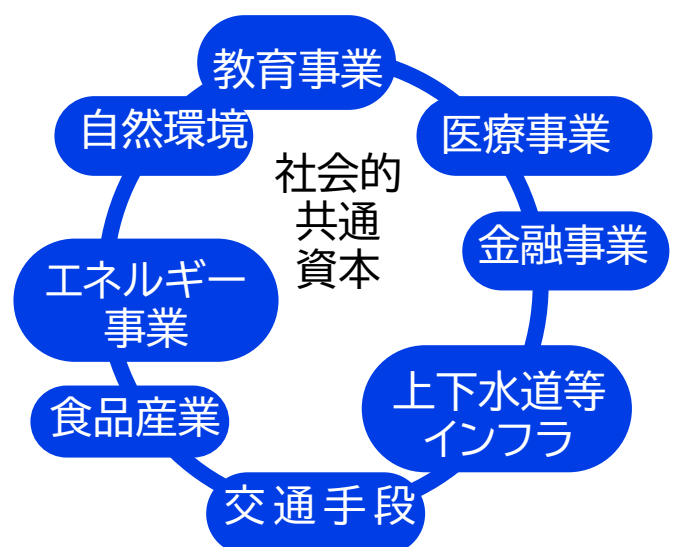
これまでの経済学では経済成長を目指すことが当然と考えられていました。しかしアメリカの生態経済学者ハーマン・デイリーは経済成長が良いと考えるのは錯覚であると指摘しました。経済が成長しても大量の二酸化炭素を排出し地球環境に損失をもたらすことは結果として不経済だということです。

そして成長しなくても成り立つ経済を「定常経済」と呼びました。政策としては、限られた地球の資源を世界で上限を定め公正に各国に割り当てること、資源を利用してCO₂等を排出する企業に環境税を課すこと、国際間の資金移動を制限し、金融システムを抜本的に改革することなどが考えられます。

●定常経済のために

先進国は自らの成長を抑制して途上国の成長を支援すべきです。

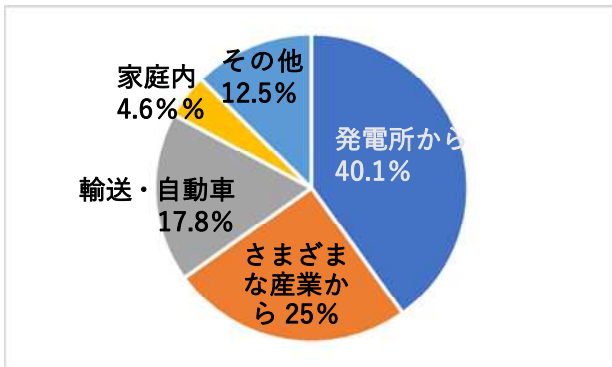
また、日本の経済学者宇沢弘文(1928～2014)は、人間の生存に不可欠な「社会的共通資本」を、資本主義の市場原理に取り込まず、公共財として守るべきだと考えました。



3.暮らしたい未来を選ぶために今私たちにできること

①「日本の二酸化炭素排出量を 2050 年までに実質 0 にする」

発言したのは 2020 年の菅首相です。2022 年の日本の二酸化炭素排出量は年間約 10 億 8500 万トン。前年度比 2.3%減少しました。



日本の産業別 CO₂ 排出量の割合

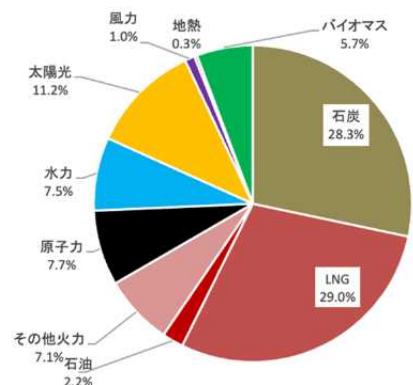
「図表でわかる 14 歳からの脱炭素社会」から

左のグラフの日本の産業別に見た二酸化炭素排出量では、家庭からの排出量は節電などが行われている結果、4.6%と小さくなっています。世界的に見ても優等生です。かわりに問題なのが発電所からと、さまざまな産業から排出される二酸化炭素排出量です。

では私たちに何ができるでしょう。

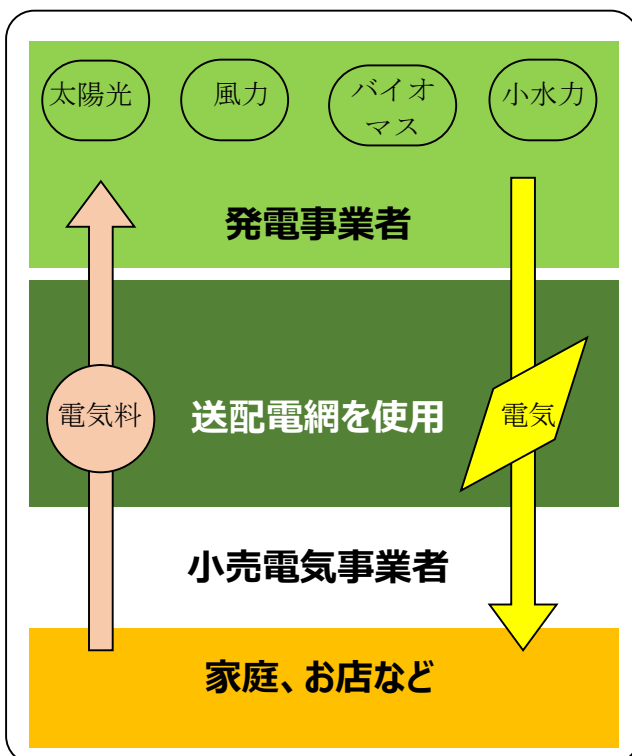
②再生可能エネルギー事業者の電気を買おう

2016 年に、日本でも電力小売り事業が自由化されました。消費者が電気の材料のエネルギーを選ぶようになりました。



日本全体の電源構成(2023 年速報)

電力調査統計などより ISEP 作成



発電事業者から消費者に電気が届く流れ

生活クラブ生協は、原子力発電に反対します

政府は CO₂削減のためという理由で原子力発電を進めようとしています。しかし原子力発電には大きな非合理性や危険があり、私たちは稼働に反対します。

まず原料の核物質の採掘から発電所の建設、運用、廃炉、使用済み核燃料の処理までの経費を考えると経済的に非合理です。また、使用済み核燃料のような幾世代にもつけないようなごみを生み出すことに反対です。さらに、事故があった場合の危険性の高さは福島第 1 原発事故を見ても明らかなように許容できるものではありません。

3. 暮らしたい未来を選ぶために今私たちにできること・その2

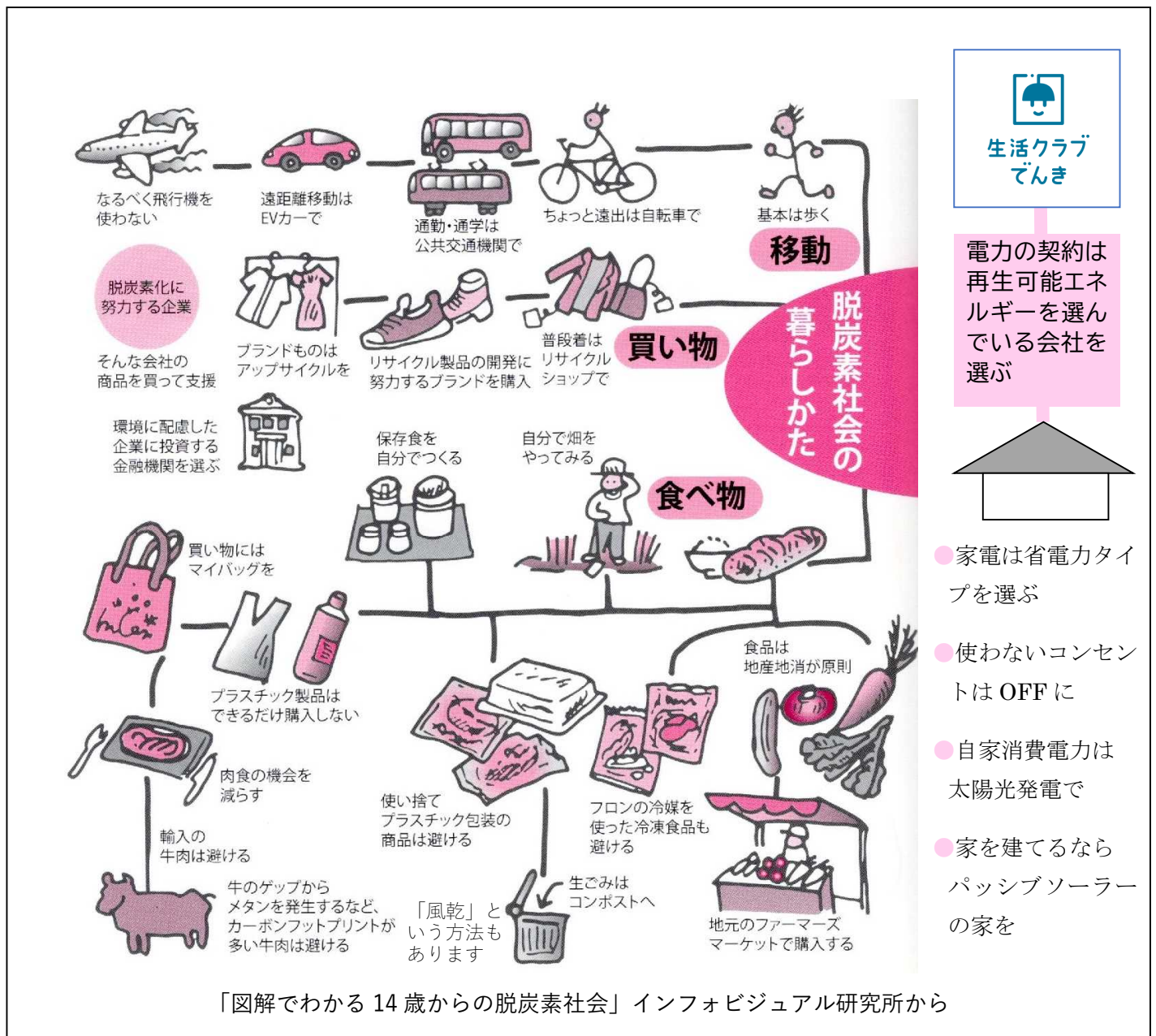
①節電、節水、ごみの減量から

日本の CO₂ 排出量のうち、家庭由来のものは 4.6%。その半分以上が電気の使用によるものでした。また、家庭でごみを捨てればごみ処理場で、水を使えば上下水処理場で間接的に CO₂ が排出されます。

私たちにできること、もっと搜してみましよう。

②温室効果ガスを多く排出して作られた品物を買わない

遠方から飛行機で運ばれた野菜ではなく、地元の野菜を選ぶこと。
牛は反芻によってメタンという温室効果ガスを放出し、飼育にも多くのエネルギーが必要なので牛肉や乳製品を避けることなど。



4. 生活協同組合でできること

生活クラブ生活協同組合は、危険性が高い添加物を排除した食品など安全性の高い品物を適正な価格で取組み、仲間を増やし、生産者とともに持続可能な社会をめざして事業を行ってきました。

国連が2015年に、「持続可能な開発目標SDGs(Sustainable Development Goals)」を掲げる以前から、生活クラブでは様々な取り組みを行ってきました。2020年に「2030行動宣言」として11の重要目標を掲げて進めています。

そのうちの一つを紹介します。

2030 行動宣言 重要目標 5

原発のない社会をめざし、再生可能エネルギーの生産と普及に取り組めます。

●省エネルギーと再生可能エネルギーの利用をすすめる

再生可能エネルギーを中心とした、「生活クラブでんき」の共同購入を 2016 年にスタート。全国約61ヶ所ある発電所の電気を、各地の生活クラブや提携生産者が出資して立ち上げた(株)生活クラブエナジーが仕入れ・需給調整を行ない、組合員の家庭や消費材をつくる工場などに届けています。

契約件数 2022 年度 17,666 件

目標達成率 2030 年度目標 59,666 件の 30%を達成

●生活クラブでんきの発電所を増やす



生活クラブ風車「夢風」(秋田県)



会津電力(株) 雄国太陽光発電所(福島県)

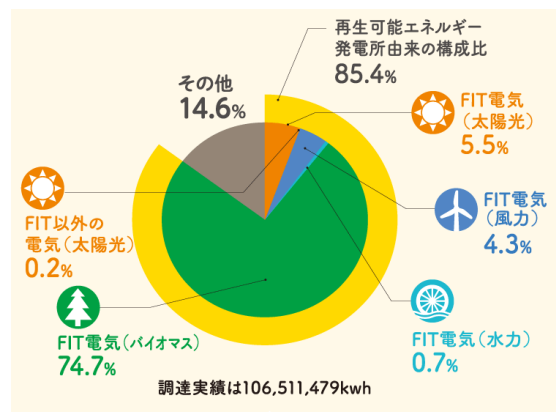
生活クラブでんきの
再生可能エネルギー発電所数

68 カ所

2023 年 5 月末現在

2022 年度調達電源比率

再生エネ発電所由来の構成比 85.4%



2030 年度目標

再生可能エネルギー100%!